

心の扉を 開いたら

患者会・福祉団体便り

7月に相模原やまゆり園で起きた、比類なき惨劇の事件は2カ月たった今、報道の減少を感じます。事件後、国は施設セキュリティー強化や措置入院制度の見直しへと走り、寄せられてくる多くの知的障がい者への激励の中には、少数ながら事件容疑者に共感する意見があることも、残念ながらつらく悲しい事実であります。

事件を風化させずに、悲しい事件を再発させないためには、障がいのある人の特性や環境を理解していただき、時間がかかろうとも共に支え合い生きていく「共生社会」の実現を目指して地道に進んでいく以外はないと思います。

障がい者理解には、「目隠し」や「車いす体験」など視覚や身体障がい者の「疑似体験」などがあります。知的障がい者の疑似体験には「アラビア語で話しかけられた場合と同じですよ」など、普段は使用しない言語による聞き取りなどが挙げられます。しかし、療育手帳を保持する知的障がい者の特性は多種にわたり、会話の厳しい最重度の方から、一般的に就労し、結婚、子育てと日常生活には何の支

障がい者との触れ合いを

障もない状況で、外見ではほとんど障がい者と判別できない方もたくさんいます。そのため障がいのある人の特性や状況を理解するには、社会生活の中で、日常から関わりを持つ機会を増やしていく以外にはないと思っています。

障がい者理解の促進のために地域にある障がい者施設や支援学校の行事に積極的に参加していただき、身近で声をかけ肌で触れ合っていたきたいです。10月2日(日)、沖縄市民会館で県内知的障がい事業所の利用者500余名による舞台発表があります。同15日(土)は、沖縄市泡瀬の県総合グラウンドで、県内の施設・事業所を利用する約2100人の知的障がいのある人のスポーツ大会があります。

どうぞ、会場に足を運び、多くの知的障がいのある人の明るい笑顔と躍動感あふれる姿に声援を送ってください。そして、障がいのある、わが子や兄弟の姿に、心から喜び感動の拍手を送る家族たちの現状の姿を理解してください。

長い人生の中で、誰もが「障がい者」になる可能性があります。が、「誰にでも幸せになる権利はあり、命の重さや尊さは平等である」。私はいつもそう思っています。

舞台発表、スポーツ大会の問い合わせは県手をつなぐ育成会 ☎098(8882)5727。